



9月よりリニューアルオープンした食堂
朝食メニューのクラブサンド

浦学だより

Vol.96

☎ 336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山172

☎ 048-878-2101 ☎ 048-878-3335

http://www.uragaku.ac.jp/

発行者 国際教養・ライフスキル教育推進部

編集者 浦和学院高等学校広報・企画局

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

2016.10.1

部活動大会報告

インターハイ・全国大会出場

テニス部 女子 全国高等学校総合体育大会

本校テニス部女子3年松田美咲選手が、第73回全国高等学校対抗テニス大会および第106回全国高等学校テニス選手権大会にて、女子シングルスで堂々の全国準優勝を果たしました。決勝では、地元島根県選手を相手に、アウェーかつ猛暑の中力の限り大健闘しました。



3年K組
松田 美咲
(さいたま市立八王子中学校出身)

今回のインターハイで私達女子テニス部は32回目の出場となり、団体戦ベスト16、個人戦シングルス準優勝、ダブルスベスト16となりました。2年ぶりに出場できた団体戦では、今まで以上にメンバーとサポートが1つになり、浦学テニス部として全員で戦えた試合でした。個人ダブルスでは最後まで気持ちで負けず、楽しむことができました。シングルスではあと一歩及ばず、悔しい思いで終わってしまいました。決勝戦は、相手が地元の島根出身だったためアウェーの中での戦いでした。しかし、私が戦いきれたのは仲間の応援があったからです。個人戦にもかかわらず、本気で応援してくれ、私の一生思い出に残る試合でした。ここまで結果が出せたのは、日々ご指導して下さい先生やコーチ、チームメイト、両親を含めチームメイトの保護者の方の支えがあったからです。今後とも、テニス部の応援をよろしくお願いします。

優勝は惜しくも逃しましたが、素晴らしい結果をおさめてくれました。松田選手、テニス部のみなさん、お疲れ様でした。そして、多くのご声援ありがとうございました。

松田美咲
個人戦
準優勝!!

松田美咲選手の経歴

高校3年の夏、インターハイで自己最高タイ(2年次の春の選抜でも全国準優勝)となるシングルス準優勝の成績をおさめた。

テニスを始めたのは5歳、母親の友人とともにテニススクールを訪れ、体験したことがきっかけとなった。「ボールを思い切り打つことが楽しくて!」小さいながらに感じた想いは、今も忘れていない。さいたま市立神田小学校、同八王子中学校を経て現在に至る。そのごく普通の経歴には、将来トップアスリート松田を形成する英才教育が隠されていた。小・中学校時代から「テニスの効果に通じるなら」と、良いものを意識し取り組んでいた。例えば、指を動かすことで脳の活性化へ繋がるピアノ、筋肉強化のトレーニングとして水泳、肺活量に良いとされるトランペット(金管バンド)、浦和レッズの指導によるサッカー教室、さらには海外へ行くとき困らないようにと英会話教室へ通っていたという。

結果、国内数々の大会では上位進出の常連に、さらに舞台は世界へ飛び立っている。全豪ジュニアオープンの出場経験は、近い将来「松田プロ」を想像させ「東京オリンピックの舞台」に立っていることを願ってやまない。

女子シングルス ※準々決勝～ 3セットマッチ

決勝	0-2	対	細木 咲良(開星・島根)
準決勝	2-1	対	下地 奈緒(沖縄尚学・沖縄)
準々決勝	2-0	対	吉岡 希沙(四日市商・三重)
※1回戦～4回戦 8ゲームプロセツ方式 (2ゲーム差をつけて8ゲーム先取したら勝利)			
4回戦	8-4	対	西田賀杏央(大商学園・大阪)
3回戦	8-5	対	平田 歩(岡山学芸館・岡山)
2回戦	8-3	対	坂田 玲香(北陸学院・石川)
1回戦	8-5	対	中島ゆりか(九州文化学園・長崎)

テニス部 男子

3年K組 **塩谷 大河** (和光市立大和中学校出身)

私は、男子テニス部の代表としてインターハイに出場しました。結果は初戦敗退で、とても悔しい思いをしました。6月に行われた関東高校の団体戦3位の結果をバネに、日々の練習を頑張ってきたのですが、インターハイでこの様な結果に終わって、とても悔しい思いです。しかし、ここまで来れたのは全て先生方のご指導や部員の応援のおかげです。この中でも1番私を支えてくれたのは主将でした。彼は主将という大役を務めながら、私が弱音を吐くといつも励まし助けてくれました。私はこの3年間良い先輩、仲間、後輩に出会えた事が本当に幸せです。残りの時間は、後輩のサポートに回り、3年生の熱き魂を受け継いで欲しいと思います。これからもテニス部の応援をよろしくお願いします。

パワーリフティング部

第34回 全日本高等学校 パワーリフティング選手権大会

8月7日(日)、さいたま市大宮武道館にて、第34回全日本高等学校パワーリフティング選手権大会が開催されました。

本校より男子11名の選手が出場し、団体戦で優勝を果たすことができました。また、個人戦では3年森田篤史が優勝し、優秀選手賞も受賞することができました。数々の好成績を残したパワーリフティング部ですが、この後に控える世界大会等の活躍にも期待が高まります。



3年R組
森田 篤史
(所沢市立安松中学校出身)

私達パワーリフティング部は、8月7日の第34回全日本パワーリフティング選手権大会に出場しました。結果は、私達3年生の最後の全国大会で初めて団体優勝することができ、文部科学大臣杯も獲得することができました。私を含めて3人、入賞できた選手がいたので大変良い結果を残すことができたと思います。さらに、私自身も6月に実施された世界大会では世界記録を更新し、この大会でも個人1位となり、優秀選手賞も受賞することができました。全体として、大変清々しい気持ちで大会を終えることができました。また、3年生は3人の選手が世界大会に出場するので頑張ってもらいたいです。そして、これから私達3年生は引退しますが、後輩たちには更に飛躍してもらいたいです。これからも、応援よろしくお願いします。

ハンドボール部 3年K組 高野 颯太 (府中市立府中第四中学校出身)



私達男子ハンドボール部は、インターハイ県予選で優勝し、26年連続でインターハイ出場を決めました。インターハイ予選決勝を終え、約2か月間インターハイ優勝を目標として練習してきました。インターハイでは、2回戦は危なげなく勝利することができました。しかし、3回戦では自分たちのやってきたことが発揮出来ず、インターハイはベスト16という結果で終わりました。これから1、2年生には全国優勝を目指して頑張ってもらいたいです。日頃から厳しく指導していただいた岩本先生をはじめ、応援していただいた保護者の方々、浦学ファイヤーレッズの方々には感謝の気持ちでいっぱい입니다。3年生も次のステージで頑張りたいと思います。これからも、浦学ハンドボール部の応援をよろしくお願いします。

馬術部 第50回 全日本高等学校馬術競技大会

本校馬術部が、第50回全日本高等学校馬術競技大会にて全国初入賞となる第3位の好成績を収めました。悪天候の中、生徒たちはベストを尽くし馬術部が持つ過去の全国大会実績(ベスト8)を上回る快挙となりました。全国で活躍する成長ぶりは、日々馬と向き合い愛情をそそぎ、世話をするひたむきな姿がもたらした結果でしょう。今後の馬術部の更なる活躍に期待したいと思います。



準決勝	減点25	-	減点0	対	奈良県立山辺(奈良)
第2回戦	減点0	-	減点4	対	熊本県立菊池農業(熊本)
			減点4	対	広島県立西条農業(広島)
第1回戦	減点5	-	減点20	対	香川県立農業経営(香川)
			減点8	対	愛知県立安城農林(愛知)

3年組 **村上 輝**
(越谷市立千間台中学校出身)

私たちは、毎日休むことなく馬と共に切磋琢磨してきました。そして、2年連続インターハイに出場することができました。昨年は1つの障害落下の差で1回戦負けをし、本当に悔しい思いをしました。その時、先輩とまたこの舞台に戻って絶対に勝つことを約束し、この1年間先輩や先生方の思いを胸に努力してきました。インターハイでは、初めて乗る馬で3分間のみで感覚をつかみ本番に挑みます。そして1回戦、昨年敗れ3位だった高校と再び対戦し、リベンジを果たすことができました。チームの雰囲気も良く、流れに乗り、浦学馬術部史上初の3位という結果を残すことができました。これは、いつも喜怒哀楽を全面に出して指導してくれる菅谷先生や、顧問の先生、家族、仲間、先輩方、馬のお陰です。馬術部は、他の部活に負けない練習と、日々耐え抜いて他の部に誇りをもち、いつか全国制覇すると信じています。

馬術の競技ルール

- 競技形式について
- 1チーム3名の団体戦で3頭の賞と馬に乗って障害を飛躍し、その騎乗技術を競います。主な競技ルールは、以下の通りです。
 - ① 障害物を落下させると、減点4。
 - ② 障害物の前で止まってしまう。コースから外れてしまうと「反抗」となり、減点4。
 - ③ 「反抗」2回目で失格。
- 3名が走行を終えた時点で、「総減点の低いチーム」が勝利。また、総減点が高い場合は、3名の「タイムの合計が速いチーム」が勝利。

ソングリーダー部 3年組 安中 由奈 (八潮市立大原中学校出身)



私達ソングリーダー部は8月21日に駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で行われた「School&Competition 2016」に出場しました。3年生にとっては最後の大会となり、今まで練習してきたことの集大成を発揮する大会となりました。また、1年生にとっては初めての舞台だったので、緊張している様子が見えましたが、チーム全員で励まし合い、取り組みました。この日のために、同じ目標に向かって学年の枠を越えてコミュニケーションを高めていきました。結果として、目標といていた順位には届きませんでしたが、チームとしてのチームワークの良さを感じられた大会となりました。私達を応援して下さった保護者の方々や学校、コーチや先生方のために、今回得た課題を次の大会までに直し、感謝の気持ちを結果で恩返ししたいと思います。

芸術鑑賞会

2年E組 澁谷 香菜子
(さいたま市立常盤中学校出身)

進学類型

今回の講演会では、とても楽しい経験ができました。落語で使う道具の使い方や、短い落語など例えを出しながら説明していただき、ずっと笑いながら聞いていました。

桂扇生さんの落語では、生徒にお手本を見せてから実際に落語を生徒に読ませて、ダメな部分をアドバイスしていました。落語をやるには注意することがたくさんあるんだなと思いました。林家なな子さんの落語は、1人で何役も演じていて内容もおもしろく、聞き入ってしまいました。“なぞかけ”は、1・2年生が出したお題に素早く答えていて、とても感心しました。マジックや太神楽はテレビで見たことのあるようなものや、初めて見るものもあってとてもびっくりしました。

今回の経験で、今まであまり聞いたことのなかった落語をとても楽しく聞くことができました。これからは聞いたことのない落語もたくさん聞いてみたいと思います、興味を持つきっかけになりました。



1年B組 山崎 春香
(川口市立里中学校出身)

特進類型

私にとって歌舞伎は、テレビなどのメディアを通すことでしか観る機会がないような遠い存在でした。しかし、今回の芸術鑑賞会で歌舞伎を実際に観るととても身近なものに感じられました。花道がすぐ近くにあり、役者の方の表情もよく見えました。

また、今回は歌舞伎教室ということもあり、歌舞伎初心者にもわかりやすい工夫がたくさんありました。例えば、前座では歌

舞伎役者の方が専門用語や、歌舞伎で使われる道具や装置、楽器などの名前を紹介してくれました。さらに、台詞も現代の人にも理解できるような言葉が使われており、パンフレットにも物語のあらすじが書かれていたので、とても観やすかったです。

今回の芸術鑑賞会の歌舞伎は普通の歌舞伎よりも短く構成されており、本当は1日ばかりで講演されることを知り、驚きました。機会があれば、ぜひもう一度歌舞伎を観に行きたいと思います。

フレッシュマン
キャンプ

1年K組 上野 有紀 (さいたま市立三橋中学校出身)

私は、このフレッシュマンキャンプで、友だちと協力し、共生することを学びました。そして、しおりに書いてある時間に合わせて次の行動に間に合わせるように計画して動くことがとても大切なのだと思います。また、1人

ではなく、集団行動なので1つでも間違えたら周りに迷惑をかけてしまうため、周りに迷惑がかからないように早めの行動を心がけました。バーベキューでは、同じ班の人たちと協力して食材を切り焼いたり、普段では中々やらないことをやりました。オリエンテーリングでは、雨が降ってしまい、外での活動は出来ませんでしたが、室内で答えを一緒に考えたり、校内を回ったりと、協力してできました。私はこのフレッシュマンキャンプを通して、浦学の校訓である、克己、仁愛、共生の3つの言葉の意味をしっかりと理解できました。これからは自分が今何をするべきなのかを考えて行動することを大事にしたいです。また、仲間意識を持って学校生活を過ごし、キャンプで学んだことを活かしていきたいです。

キャリアガイダンス

1学年進路指導課長 小山 晋助

1学期の期末テストが終了し、テスト返却の2日目にあたる7月6日(水)に行われたキャリアガイダンスには、981名の1年生が参加しました。このガイダンスに参加することの一番の意味は、『興味を持って選んだ分野が、想像通りだったか違っていたか』を知ることです。講義の内容がイメージ通りであり、より興味を持てたのであれば、それをもっともっと深く掘り下げ、思っていたものと違った場合や、今回の講座の内容に興味を感じることができなかった場合は、次に興味を持てるものを探すために動き出す。そうやって、これから迎える「文理保選択」という大きな分かれ道に向かって歩み出して欲しいと考えています。物事は、たったの一側面だけですべてを判断できるほど単純ではありません。だからこそ、様々な側面からの考え方や色々な角度からの見方を、今年度の大きな分岐点で学んでくれるであろうことを期待しています。

28
年度

受験シーズンに向けて

執行部長
進路指導担当 高橋 広和

今と昔で大学受験は大きく変わりました。私が大学受験を経験したのは平成元年ですが、当時の高校卒業生数は約170万人でした。一方現在は約106万人ほどです。これに対して大学数は、国公立・私立を合わせると280校も増えています。そこで保護者の方たちにとっては、聞いたことがないという大学も多くあると思います。学部や学科の名称もずいぶん変わり、名称だけではいったい何を学ぶのかかわからないようなものも存在します。したがって、今の生徒たちは、昔に比べて選択の幅が広がったと言えます。しかし、これは必ずしも歓迎すべき現象ではありません。選択の幅が広がるということは、調べなければならないことも多くなるからです。昔はどの大学であっても学部や学科の名称はほぼ同じで、当時の受験生は大学の難易度によって志望校を決定していました。しかし今は、志望校を決める基準は一人ひとり異なります。難易度はもちろん、やりたい勉強ができるのか、通学時間はどれくらいか、校風やキャンパスの雰囲気、また学費も重要です。どの大学も他大学との差別化を図りながら、受験生の獲得を目指しています。選択の幅が広がっている今だからこそ、自分が重視すべきものは何かをしっかりと考えてほしいと思います。くれぐれも安易に選択してしまい、「考えていたものと違っていた」といういわゆる「ミスマッチ」が起こらないようにして下さい。3年生たちは、いよいよ志望校を決定する時期となりました。心から行きたいと思えるような学校を見つけ、合格を目指して全力で努力してください。

特進夏季進学合宿

特進推進部
1学年指導係長 新妻 正樹



特進類型では、7月26日～7月30日まで長野県車山高原において夏季進学合宿を実施しました。3年生においては高校生活最後の合宿でもあり、例年以上に力が入っていました。さすが受験生と思わせるような鬼気迫る様子で授業や自習に取り組んでいました。また、足を怪我した1年生の荷物を運んであげるなど、この3年間で人間としても成長している様子を見ることができました。1・2年生においては1学期の総復習を完成させることを目的とし、真剣に授業に取り組んでいました。合宿中、1・3年生は霧ヶ峰登山を実施しました。1年生においては初合宿ということもあり、リフレッシュする時間となりました。3年生の登山は担任の先生方の強い要望によるもので、頂上まで登ったときの達成感を味わうことで、合格した時の達成感をイメージし、今後のモチベーションに繋げてもらいたいという思いから実施しました。また、毎朝5時から行われている自習時間に出席する生徒が例年以上に多く、3年生はもちろんのこと、2年生の姿が多く見られたことが、今後の特進類型の先頭に立っていくものの意識の高さを感じさせられました。最終日においては、合宿中に実施したテストの成績優秀者を表彰するなど、達成感のある充実した合宿になりました。

大学・短大説明会

3学年進路指導課長 高畑 圭史



期末テストが終了した7月4日(月)、3年生と2年生(文理選抜コースの希望者)を対象に大学・短大説明会を行いました。参加生徒は800人を超え、参加校は75校、100名近くの大学・短期大学の先生方がいらっしゃいました。この説明会には2つの大きな特徴があります。1つ目は、多くの他校生がいるさいたまスーパーアリーナや大宮ソニックシティでは相談しにくい、協定校推薦や指定校推薦等の内容を細かく相談できることです。2つ目は、自分の学校で多くの学校と相談ができるということです。本校は、2年生の夏休みから「オープンキャンパスへ行こう」ということで第1希望や第2希望の学校へすでに行っている生徒が多いのですが、限られた時間の中では多くの学校に行くことは難しいものです。また、部活動が盛んな本校では1つの学校でさえ行くことが難しい生徒もいます。そのために75校もの大学にこの時期本校にお集りいただき、説明会を行うことで解決しているのです。この説明会が終わるといよいよ夏休みへ突入し、早い人は8月からのAO入試の本番となります。この「浦学だより」が出る頃は、ちょうど推薦入試の真っ只中のはずです。志望理由書の作成や面接練習に遅くまで取り組んでいることと思います。この説明会では、学校の教育方針やカリキュラム、大学生活等様々なことも知ることができたはずで、この説明会で得たことを、しっかりと活かして納得のいく結果が出ることを期待しています。

ボランティア報告

3年0組 倉持 美 薫 (草加市立谷塚中学校出身)

主催者名: アジアアフリカと共に歩む会 (TAAA)

活動内容: 本の梱包・絵本の翻訳

今回初めてボランティアをやらせていただき、2時間という短い時間でしたが、とても多くの事を学ぶ事ができました。私はスペイン・フランス語の本をまとめる作業と、「ぐりとぐら」という日本語で書かれた本に、現地で使われている「ズルー語」のセリフを貼るという作業をしました。どちらの作業を行う時も、職員の方が一つ一つ丁寧に教えて下さったので、スムーズに出来ました。作業後、南アフリカ事務所代表の平林薫さんから南アフリカの特徴や過去にあった事、今回行った「本の梱包」がどれだけ大切な事なのかという話をさせていただきました。お話を聞いて、改めて私達は恵まれた環境で過ごすことができていると感じました。そして、自分たちが行った作業によって一人でも多くの子が笑顔になると考えると、とても嬉しく幸せな気持ちになりました。これを機に、南アフリカの方々のお役に立てるようなボランティア活動を少しずつ行っていきたいと思っています。

2年W組 落合 桜 花 (春日部市立中野中学校出身)

主催者名: NPO法人彩の子ネットワーク

活動内容: イベント&準備ボランティア

私は今回、「こども☆夢☆未来フェスティバル 2016」というボランティアに参加させて頂きました。このフェスティバルは、子ども達(小学生)が中心となり、「子ども達の町を作っていこう。」というものでした。それは具体的に、子ども達が学校の先生やベビーシッター、おかしな森など、大人を楽しませるために手作りで町を作っていくという企画です。私達、ボランティアの仕事は、今回その子ども達の会場作りを協力して手伝うことでした。私は当初、子ども達と上手く会話をする事が出来なかったり、初めての裏方の仕事に戸惑ったりと上手く出来ませんでしたが、周囲の方々の協力もあり、数日たつと段々と仕事をこなす事が出来るようになっていきました。私は今回のボランティアで、仕事をする事で生まれる達成感や、周囲の人々に合わせる事、協力することの大切さ、そして心の温かくなるような体験など、たくさんのお話を学ぶことが出来ました。これらの経験は、私の中の宝物となることでしょう。もし、また機会があるのであれば、ぜひもう1度参加させて頂きたいと考えています。ありがとうございました。

クロスカルチャー
ツアー2年H組 瀬 端 璃 和
(さいたま市立原山中学校出身)

今回のクロスカルチャーツアーは、私にとって大変価値観が変わる経験になりました。午前は授業、午後はアメリカ研修のようなプログラムで構成されており、アメリカを満喫しながら授業を受けられるとても良いプログラムでした。そして、ホームステイ先では個性豊かなホストファミリーと過ごすことができました。最初は不安でしたが、日数が経つうちにホストファミリーそのものがかけがえの無いものへ変わっていきました。

私はこの経験を通して2つ気付いたことがあります。

1つ目は、日本人は文法などの書く力は優れている。一方、他国と比べ、話す力と語彙力は劣っているということです。2つ目は、もっと世界を知りたいということです。外国人、日本人関係なく、同じ世界に住む人同士、努力すれば言語は違えども伝えあう事ができると気付きました。私は2週間を通して多くのことを学びました。この経験を活かして、日本だけでなく世界を視野に入れて活動していきたいと思っています。

今年も[浦学ふぁみり〜応援写真コンテスト]に応募しよう!

今年もまた、『がんばる仲間をみんなで応援』をスローガンに「浦学ふぁみり〜応援写真コンテスト」を実施します。

部活動大会の
応援時撮影写真など、
生徒のみならずもちろん
保護者の方々からも
たくさんのご応募を
お待ちしております。
お子様を通して
ご応募ください。

日程

- ・ 応募期間 2016年5月21日(土)~2016年11月25日(金)
- ・ 投票期間 2017年1月11日(水)~20日(金)
- ・ 結果発表 2017年3月1日(水)

応募方法

1. 対象 部活動、学校行事、ボランティア活動など学校生活の様子
2. 提出物 ①写真、SDカード、USBメモリーのいずれか
②応募用紙(用紙は学校に用意しています)
応募者名、撮影日、大会・イベント名、撮影シーンの説明を記入
*生徒の場合は学年・クラスも記入
3. 提出方法 生徒 → 担任
保護者 → 生徒 → 担任

学校の情報が満載のHP
(<http://www.uragaku-family.jp/>)は
浦和学院ホームページから

《浦学ふぁみり〜》を
ご覧になれます。

美術コース

2016 Summer Art camp

今年のサマーアートキャンプは、長野県の小諸にある懐古園で写生を行いました。つい先日まで台風9号の影響があったり、その後の台風10号が迫っていたりと、厳しい状況の中ではありましたが、この3日間は好天に恵まれ、生徒たちには最高の写生日和となりました。

初日は浦和学院専門学校に集合して、大型バスで軽井沢に向かいました。まずは、世界的に有名な日本画家である千住博の美術館へ行きました。幻想的な作品に生徒たちは魅了されたようです。そんな中、千住博さんが美術館に現れ、驚いた様子の生徒もいました。その後は懐古園に到着し、写生場所を探して園内を散策。この日の目標はデッサンの完成なので、生徒達は集中して描いていました。



2日目は、デッサンの上から着色を行います。朝の9時から夕方5時まで連続して描いていきます。美術の作品制作には、体力と集中力が必要不可欠ですが、野外の写生では太陽の日差しが容赦なく照りつけ、体力を奪っていきます。生徒たちはそれでも果敢に画面に立ち向かっていきます。さすがに後半は集中力が途切れがちにはなりますが、それでも作品完成を目指して黙々と描き続けました。

3日目の午前中は、最後の仕上げを宿舎で行いました。一言も喋らずに集中して2時間描き、3日間の合宿は終了になります。作品を描ききった生徒の表情は、疲れてはいないのですが、誇らしい表情でした。今年のサマーアートキャンプも、充実した3日間となりました。



生徒・教職員の命を守る

問題解決型

救急救命シミュレーション



7月5日(火)、本校健康科学センター主催の「救急救命シミュレーション研修」が行われました。

本校では、生徒・教職員の安全を最優先に考え、万が一心肺停止事故に直面した際、とっさの行動が出来るよう定期的に訓練を重ねています。AEDを含む通常の救急救命処置講習は年6回(教職員1~2回受講必須、生徒はクラス単位での講習)、今回のような大規模な「救急救命シミュレーション研修」を年1回実施しています。

この取り組みをはじめ今年で5年目。決して慣れる事なく、実践しながら緊迫した状況下で取り組んでいます。そして、回数を重ねる度、的確な指示・行動・判断へと結びついていることがうかがえます。また、実施にとどまらず、直後の振り返りと情報共有(グループシェアリング)の検証重視により、新たな問題点や改善点が浮かび上がります。約3時間におよぶ研修は、緊急時に備え、救急隊到着までにできる適切な処置・行動を学ぶ有意義な時間となりました。研修実施により、緊急時に行動する勇気と命を救う力になることを願ってやみません。

今回の事例は、「授業中教室で女子生徒が突然意識を失い倒れ、心肺停止・頭部打撲・頸椎捻挫」の状態を想定。倒れた生徒の周囲スペースを広くあけるため机を移動し、生徒や教員へ緊急要請の指示。「近くにいる教員を呼ぶ・AEDを取りに行く・救急車の手配・心臓マッサージ・緊急連絡カード(保護者への連絡)・持病やアレルギーの有無」など、救急隊員が到着するまでの適切な処置方法や行動を学びました。



この夏季休業中、校内の施設設備改修工事を行いました。間もなく開校40周年を迎える本校は、この10年間、大規模な耐震工事、昇降口改修、トイレ改修、校舎防水工事を進めてまいりました。1サイクルすると、経年劣化により、同様の工事を繰り返し進めていくこととなります。

第一グラウンドは、本校の中心位置として朝礼・体育授業・部活動・昼の憩いの場として多機能、多様性のある使い方が求められ、それらにあった整備を施しています。レザータイプ(弾力性のあるゴム素材)に敷き詰められたグラウンドは、新調された白線と、緑と青のコントラストが鮮やかで、躍動感を掻き立てられます。

さらに連動した校内のアスファルトを整備して歩行区間を識別しました。「生徒・教職員の安全第一」、さまざまな工事において本校ならではの安全対策が講じられています。

校舎のエアコン機器改修工事は、旧機種が15年経過致しましたので、2年計画で全校舎・全教室において省エネタイプの最新機種に入れ替えが行われます。今年度は、第2校舎と第4校舎を実施致しました。

夏休みの
工事

- ・ 第一グラウンド改修
- ・ 校内アスファルト改修
- ・ 全校舎エアコン入替(2年計画の1年目)



浦和学院高等学校 石巻・東松島交流プロジェクト 「笑顔・希望」—明日へ共に歩む

何を感じ、何を考え、何を行動するか。

「学習サポートボランティアに参加して」

8月1日(月)~4(木)実施

2年B組 日下部 颯也 (杉戸町立杉戸中学校出身)

私は石巻・東松島学習支援ボランティアの参加は2回目で、今年も東北の人たちに笑顔届けたいという思いから参加することになりました。今回のボランティアで心に残った出来事が3つあります。

まず1つ目は、学習支援です。今年も小学生に勉強を教えることができるんだとわくわくしていました。しかし、昨年私が勉強を教えた子に聞いても、誰も私のことを覚えておらず残念でした。今年は覚えてもらおう、と熱がはいりました。プールの時間に、昨年私が勉強を教え、今年小学校を卒業した子が、私の事は忘れてしまっていたけれど中学生になり、成長していた姿を見てすこし感動しました。三日間はあっという間で、もっとたくさん勉強を教えたり、遊んだり、話したかったです。そして、今年は顔も名前も覚えてもらい、「来年も遊ぼう!」と言われた時は、ボランティア活動に参加してよかったなと思いました。

2つ目は、大川小学校に行ったことです。大川小学校に行く前日に昨年の光景を思い出して、涙が出そうになりました。今年は畠山先生の説明を受けながら見てまわり、当時何が起きていたのか、津波の怖さがより分かりました。大川小学校には何度行っても、その悲惨さから言葉が出ず、悲しむことしかできませんでした。その状況を見てもらおうと撮ってきた写真を家族に見せると「え…」と言葉を失ってしまいました。自分でこのような光景を見て、周りの人に伝えることができて良かったと思います。

3つ目は、民宿めぐろの若旦那さんと大原小学校の校長先生と畠山先生に、当時の話を聞いたことです。若旦那さんと校長先生の話は昨年も聞きましたが、大川小学校などの震災の被害を見る前に話を聞くのと、見た後に話を聞くのでは、当時の状況を思い浮かべながら聞くことができるかできないかという違いがあることが分かりました。また、畠山先生の話聞いて、いかに自分で行動することが大切か、震災に対する気持ちを常に引き締め、身を守るようにすることが大事だということが分かりました。さらに、「てんでんこ」という単語の意味も覚えることができました。



最後に、このボランティア活動で石巻・東松島への人の優しさを知ったことと、昨年との環境の違いについてです。学習ボランティアがスムーズにかつ楽しくできたことは、小学校の先生方の手助けがあったからであり、食事処のあごろさんで、おかわりのご飯を大盛りしてくれたのも店長さんのご好意であり、毎日元気に活動できたのも民宿めぐろさんのおもてなしのおかげであり、たくさんの優しさを様々な所で感じることができました。また、環境の違いについては、今年は海岸清掃がなくなり、復興が進んでいる面もあれば、まだたくさんの仮設住宅があり、全員が楽に過ごすことはまだまだ難しい、昨年と変わらない面もあるということがわかりました。

来年も再来年も石巻・東松島へ行って活動したいと思っていますが、だんだんと手助けすることが減ったり、来年は自分の進路を決める大事な時期であったりするので、ボランティア活動に参加することは難しいと思います。しかし、この活動で培ったボランティアへの精神は、大学生になっても大人になっても忘れずにいようと思います。様々なことを学ぶことができたこの活動に参加できて、本当に良かったです。